

今週（9月18日から9月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み序盤ということもあって調達を急ぐ先は見られず、落ち着いた展開となった。日銀当座預金残高は380兆円台後半でスタートし、20日の国債の大量償還を経て390兆円台へ増加した。

無担保コールO/N物は、都銀、信託、証券、外銀業態で▲0.085～▲0.065%、地銀業態で▲0.070～▲0.025%のビッドが見られていた。無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.06%台前半程度での推移となり、週を通してレート水準に大きな変化は見られなかった。ターム物に関しては9月末越えの調達ニーズが一服し、ロール物を中心に月内物で▲0.030%程度の出合いが散見されていた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、21日に2W・8,000億円がオファーされ、応札額2,142億円（期落ち額1,363億円）の札割れとなった。

9月18日～9月19日に開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.115～▲0.095%程度のレンジでの取引となった。積み期序盤であったが、投資家勢の一定の資金調達ニーズが見られ、レートは概ね▲0.10%近辺で推移した。

SC個別銘柄では、5y134～136、10y340～351、20y164～165、30y57～59にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、マーケット全体でも中間期末越えのレート水準が落ち着く中、全般的に小甘い展開となった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.14%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1358%、按分落札利回▲0.1318%とマーケットの慎重姿勢を反映して、前回債からレートが上昇する結果となった。セカンダリーでは、▲0.138%出合いと堅調に推移した。

21日に実施された3M物の入札は、償還日が海外の休日にあたり、レートの上昇も予想された。WI取引において▲0.12%から▲0.11%にレートが上昇する中、平均落札利回▲0.1142%、按分落札利回▲0.1082%とWI取引を反映し、前回債から上昇した。

20日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。オファー額が事前予想よりも少なかった事もあってか、平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差+0.002%と小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼・機械・石油業態等から大型発行が実施されたものの、9月末を控えていることから、一部事業法人の発行姿勢が消極的になっており、1兆5,000億円弱の償還に対して、発行総額は9,200億円程度にとどまる大幅な償還超のマーケットとなった。発行レートについては、既に残高が積み上がっている期内物では0%から若干のプラス圏での決着が中心となる一方、期越物では、先週のCP等買入オペ以来、積極的に玉を確保しようとするディーラー・投資家の動きが活発化しており、▲0.015～▲0.005%の水準での決着が中心であった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/17 (月)						
9/18 (火)	23,420.54	0.110	111.80	△ 0.064	△ 0.104	3,865,100
9/19 (水)	23,672.52	0.115	112.35	△ 0.064	△ 0.109	3,872,100
9/20 (木)	23,674.93	0.115	112.33	△ 0.064	△ 0.114	3,942,800
9/21 (金)	23,869.93	0.125	112.70	△ 0.063	△ 0.112	3,946,000

来週（9月25日から9月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
9/24 (月)	振替休日			
9/25 (火)	大阪経済4団体共催懇談会にて黒田総裁講演 金融政策決定会合議事要旨(7月30,31日分 8:50) 8月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 7月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			米FOMC(1日目) 7月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 9月の米CB消費者信頼感指数
9/26 (水)		40Y 4,000億円 9/27発行		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 8月の米新築一戸建て販売件数
9/27 (木)	全国証券大会にて黒田総裁講演			4-6月期の米GDP確報値 8月の米耐久財新規受注
9/28 (金)	決定会合における主な意見(9月18,19日分 8:50) 9月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 8月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 8月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 8月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 8月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 8月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 43,000億円 10/1発行	2Y 21,000億円 10/1発行	8月の米個人所得・消費支出 9月のシカゴPM景況感指数 9月のユーロ圏消費者物価指数速報値 4-6月期の英GDP確報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/24 (月)	振替休日								
9/25 (火)	300	4,600	4,900	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,400 ▲ 700 200 1,600	8,700 2,100 200	10,500	15,400	TB3M発行▲42700償還40000
9/26 (水)	▲ 1,000	0	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
9/27 (木)	▲ 1,000	▲ 15,000	▲ 16,000				0	▲ 16,000	地方公共団体からの貸付回収 40Y▲4000
9/28 (金)	▲ 700	3,200	2,500	CP買入		4,500	4,500	7,000	
週間合計	▲ 2,400	▲ 7,200	▲ 9,600	—	▲ 500	15,500	15,000	5,400	

9/25は日銀予想、9/26以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、無担保コールO/N加重平均レートはほぼ横ばいでの推移が見込まれる。28日は、月末要因から調達を控える先が増えると予想される。

レボ市場は、中間期末を控え、レート動向が注目される。

短国市場は、28日に償還日が年末越えとなる3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。

CP市場は、28日に市場残高が概ね3兆円程度落ち込むことが予想され、事業法人の発行レート水準が注目される。その一方で、期初スタート分での発行も相当量見込まれる。CP等買入オペが25日に予定されており、その按分レートが注視される。

主要なイベントとしては、海外では25～26日にFOMC、28日にユーロ圏CPI速報値などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお選する書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入